

紀州徳川家の愛した「総本家駿河屋」の和菓子



本ノ字饅頭の「本」の字は頼宣が残した人生訓にある「正直を本とす」にちなむという説もある。

初代頼宣とともに和歌山へ 参勤交代、行事に欠かせぬ逸品

紀州徳川家の繁栄を今に伝える和歌山のシンボル和歌山城。その北側に位置する風格ある店舗構えの総本家駿河屋は、和歌山城主の紀州徳川家とは切ってもきれない存在だ。紀州徳川家の藩祖となった頼宣(家康の十男)が、幼少期に過ごした京都の伏見から駿河(現在の静岡県)へと同店を伴って赴き、和歌山へも一緒にお国入りするほどお気に入りのお菓子屋だった。また、15代当主頼倫の葬儀では、同店が会葬御礼として羊羹をふるまったとの記録が残る。

御用品として磨きをかけた技が光る看板商品が5代目店主、岡本善右衛門が考案した煉羊羹と、「本」の字の焼き印が押された酒饅頭、本ノ字饅頭。寒天を使うことで、「蒸す」から「炊く」ものへと発展させた煉羊羹。生地に米粉が入っているため乾燥後に表面が固くなり、保存がきくことなどから、参勤交代の道中に携行された本ノ字饅頭。ともに、400年がたった現在も愛され続けるロングセラーだ。

「紀州徳川家菓子司として、また和歌山の名物として、長年にわたって多くの人に愛されてきた味わいを、これから先も長く伝えていきたい」と同社は話している。



寒天を使うことで透明感とねっとりとした舌触りが生まれた煉羊羹。



和歌山市中心部の虎伏山(とらふすやま)にそびえる和歌山城は、豊臣秀吉が弟の秀長に築城させたのが始まり。その後、紀州徳川家の居城となり、現在も多くの人々に親しまれている。紀州徳川家の藩祖・頼宣は優れた政治家としても知られ、その藩政は現在もお様々なところで影響を与え続けている。

和歌山城天守閣
住所/和歌山市一番丁3



総本家駿河屋(駿河町本舗)
住所/和歌山市駿河町12
電話/073-431-3411

